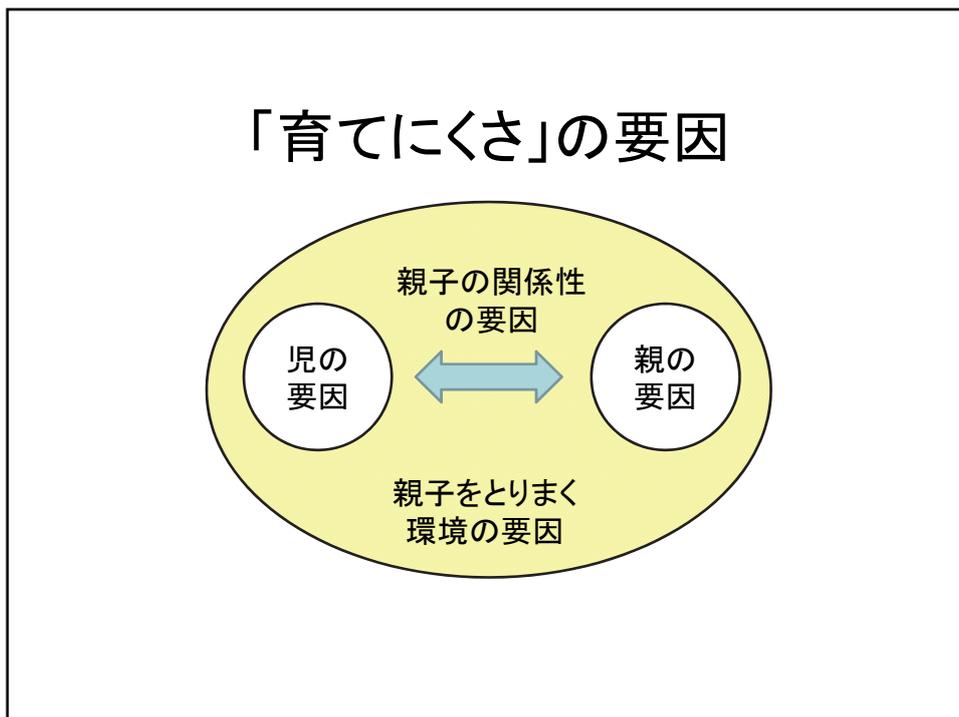
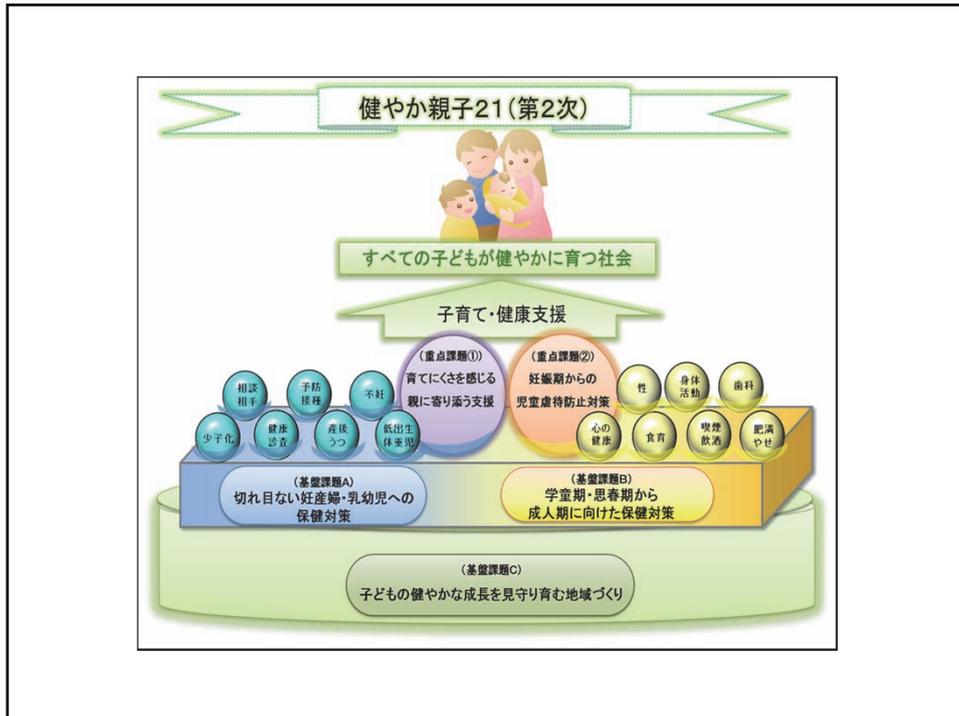


講義① 育てにくさと発育・発達

医療法人社団千実会 あきやま子どもクリニック 院長 秋山 千枝子



「育てにくさ」を分析

○下記のような多面的な要素を含む。

- (1) 子どもに起因するもの
- (2) 親に起因するもの
- (3) 親子関係に起因するもの
- (4) 親子をとりまく環境に起因するもの

「育てにくさ」の要因

- (1) 子どもに起因するもの
発達障害、先天性疾患、後天性疾患、小児特定疾患
- (2) 親に起因するもの
月経前緊張症、産後うつ、マタニティーブルー
統合失調症などの精神障害、知的障害、子育て経験
- (3) 親子関係に起因するもの
親子の相性、多胎児
- (4) 親子をとりまく環境に起因するもの
貧困、父親・祖父母の協力、次の子の出産、転居

育児支援

育てにくさ → 発達障害
虐待
子育ての経験
親子の性格
環境

親子関係の樹立・愛着関係の形成

背景

- 乳幼児健診での時間的制約
- 核家族化と地域社会での人とのつながりの希薄
- 情報の氾濫



「育てにくさ」を気軽に相談できる相談
窓口

「育てにくさ」を気軽に相談できる相談窓口



目的

- 1 親子関係の樹立と愛着関係の形成
- 2 発達障害の早期発見
- 3 児童虐待の防止

乳幼児健診(三鷹市の場合)

| | |
|---------------|-------------------------|
| 2週間健診 | : 自費(産婦人科、小児科) |
| 1ヶ月 | : 自費(産婦人科、小児科) |
| <u>3, 4ヶ月</u> | <u>: 公費(保健センター)</u> |
| 6, 7ヶ月 | : 公費(小児科など) |
| 9, 10ヶ月 | : 公費(小児科など) |
| 1歳 | : 自費(小児科など) |
| <u>1歳半健診</u> | <u>: 公費(小児科、保健センター)</u> |
| <u>3歳児健診</u> | <u>: 公費(保健センター)</u> |
| 5歳児健診 | : 自費(小児科など) |

健診でチェックすること

- ・ 発達
- ・ 育児
- ・ 疾病
- ・ 予防接種

(その親子にとっての優先順位もある)

健診でのチェック項目

- ・ 子どもが年齢相当の心身の発達をしているか
- ・ 子どもが年齢相当のケアをされているか
- ・ 親子関係が円滑であるか
- ・ 保護者がどのような状態か

保護者が子どもを正しく認識し、子どもに適切な対応がなされているかチェックすること

<1ヶ月の時>

チェック項目: 体重増加、原始反射の残存状況の
チェック

発達: 目がみえてくる

育児: 吐く、飲まない、抱っこしていないと寝ない

病気: 乳児湿疹、臍ヘルニア、莓状血管腫
予防接種の紹介

<3, 4ヶ月の時>

発達: 首がすわってくる
おもちゃに手をだす

育児: 頭の形 反り返り

疾患: 乳児湿疹

<6, 7ヶ月の時>

発達：寝返り、お座りの形ができる、
人見知りの始まり

育児：夜泣き、離乳食がすすまない、よく泣く、

病気：突発性発疹、風邪、
誤飲(タバコ、植木の土、薬剤)

<9, 10ヶ月の時>

発達：這い這い、つかまり立ち、模倣のはじまり、
人見知り

育児：生活リズム(食事、睡眠)、親などを噛む

病気：転倒(頭をうつ)、よく風邪をひく、
浴槽での事故

<1歳の時>

発達:ひとり立ち、歩行、指差し

育児:かんしゃく、好き嫌い

病気:風邪、転ぶ、ドアに手をはさむ、
階段から落ちる

パニック、かんしゃくを起こす

パニックを起こしている最中

- ・なだめないほうがいい
- ・叱ったりしない
- ・場所を他へ移す
- ・移動しているときに叱らない
- ・パニックが収まるのを待って、穏やかに声かけする
- ・いけないことの要求は通さない

<1歳半の時>

発達： 歩行の完成、単語数個
簡単な指示理解ができる(～にとって)

子育て：しつけ(物を投げる、人を叩く)
叱り方

病気： 風邪、肘内障(肘がはずれる)

ことばの遅れのワンポイントアドバイス

①指示が入らない

- ・やりとり遊びや関わり遊びを多くして、「もっと」「もう1回」という要求を引き出す
- ・生活リズムを一定にして、生活の見通しを持たせ、要求を引き出す
- ・「どっち？」と2者選択させ、手差しから指差しを教える

②言葉が少ない

- ・動作に言葉を添える「くっく、履こうね」など
- ・「～にとって」などお手伝いをさせながら単語のチェックをし、指差しして教える

当院で多い質問

- 偏食:少しでも口にしたらほめる
- 卒乳ができない:理解ができている場合に取り組む
- ムラ食い、食べすぎ:いつも同じ量を食べてほめる、おかわり1回ときめておく
- 体重が少ない:体重増加は緩やかになるのであせらない
- 噛み付く:子どもだけにせず、大人が介入できる位置にいる
- 指しゃぶり:両手で持つおもちゃをわたし、機会を減らす
- 歩くのが遅い、よく転ぶ:靴を選び、手をつないでたくさん歩く
- しつけ:叩いてはいけないと注意しておく
- かんしゃく:クールダウン

その他の様子

- ずっと泣いている
- 親から離れない
- 部屋の中を動き回っている
- 造語を話している
- おもちゃで遊び大人に関心を示さない
- やりたいことを制止されてパニックになる

何もチェックできなかった場合

「お家でママのお願いを何割くらいやってくれますか？
6～7割はやってほしい時期かも」

「この時期は気が向かなければやってくれないよね。たくさんほめてその気にさせて」

「今日は泣いてチェックできませんでしたね、2歳で再チェックさせてください。次は3歳まで健診がないから」

「場所みしりや人見知り、少しずつ慣れるしかないから、子育て広場など行ってみますか？手助けしてもらうように連絡しておきましょうか？」

3歳時の頃

- ・ ジャンプができる
- ・ 色(赤・黄・緑・青)がわかる
- ・ 名前と年齢が言える
- ・ 文章を話す
- ・ 靴をはく
- ・ ままごと遊びをする
- ・ 順番を待てる

3歳児健診のチェック項目

- ・ 視聴覚検査
- ・ 言葉「お名前は？」「お年は？」
- ・ 視線があうか
- ・ 落ち着かず動き回らないか
- ・ 場所見知り 人見知りがひどい

気になる様子

- ・ ずっと泣いている
- ・ 身長・体重が測れない
- ・ 親から離れない 抱っこされたままにいる
- ・ 服を脱ぎたがらない
- ・ 隣の健診に口をだす
- ・ 質問に答えない

保護者への説明

- お家で困っていることないですか？たとえば、思い通りにならないとすぐに怒るとか、、、？
- 園で何か困っていることはなさそうですか？
- 健診の様子を園の先生に伝えてくださいね。
- 4歳すぎても場所みしりがあれば、就学にむけての準備が必要なので、相談に来てください。
- 集団生活で心配なことがあれば、相談にきてくださいね。

うちの子人見知り？場所見知り？うちの子は心配！？

☆こんな様子がありませんか？☆

※※初めての場所を怖がりたり、かたまりたり、泣いてし



どうしてこうなるの？

「いつもと同じ」へのこだわりや、何が 起こるのかわ

まつてしまったり、泣いてしまいます。

☆家庭でできる取り組み☆

・前もって具体的に予告したり、大人がモデルを示

減しましょう。

・自信のない子どもには、安心する声かけを日常生活の中に取り入れましょ



絵や写真を使って、見せて予告をする。子どもは視覚に訴えられ方がわかりやすい。「今日はOOいくよ」「これからOOがあるよ」など。

1回であきらめず、何度か挑戦をする。(徐々に慣れるならOK)

大人も一緒に遊んで、楽しんでいることを表現するよりにする。(子どもが安心できる。)

少しの定規(線・輪ごなど)をとらえてほめる「今日はOOできたね」「今日はOOとOOできたね。」など

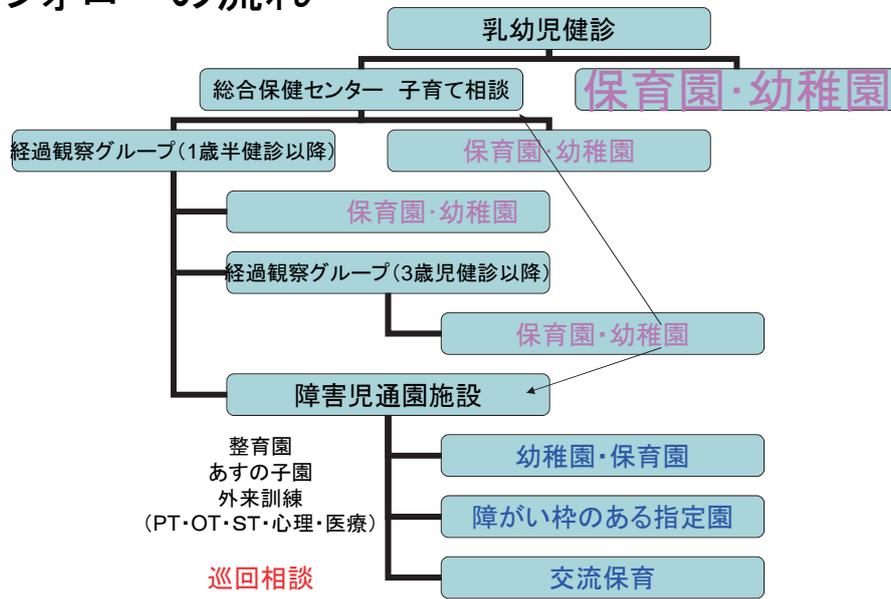
自信を持たせるように関わる。知っているもの、やった経験のあるものを増やしてあげる。自信につながる。「大丈夫、できるよ」「やった、楽しいよ。」「だ、また楽しいよ。」など。

肯定的な声かけをする。たとえ、子どもがかたまりながらも「来てよかっただね、楽しいよ。」「また来ようね。」など。

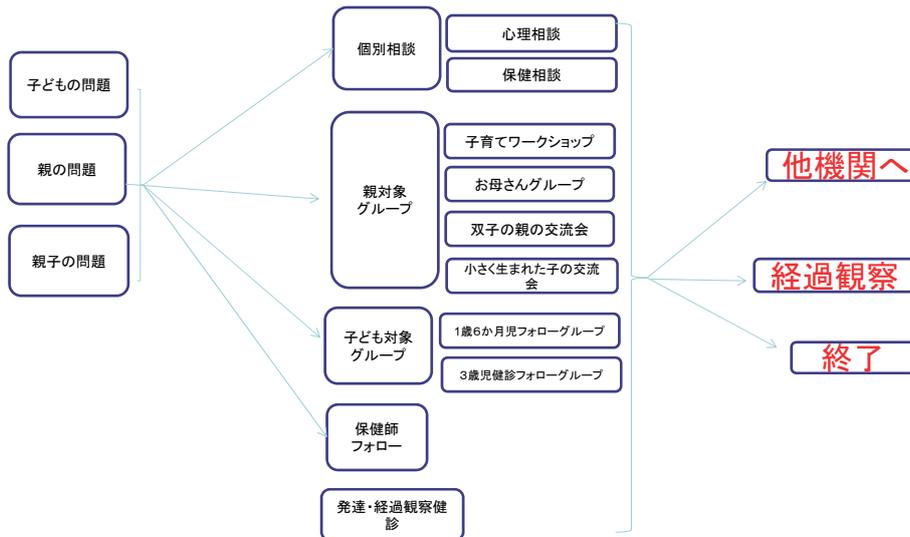
☆相談を利用するタイミング☆ 4歳をすぎて、子どもに何度重ねて経験させても反応が変わらない場合(例えば、一言も言葉を発せず、かたまり続ける、泣き続ける、など。)は保健センターへお電話ください。

三鷹市総合保健センター (0422)46-3254

フォローの流れ



育てにくさをもつ親子のフォローチャート【三鷹市】



生活リズムの重要性

• 社会人の準備

乳児期 起床 朝食 遊び 午前寝 昼食 午後寝 遊び 夕食 入浴 就寝

幼児期 起床 朝食 身辺自立 遊び 昼食 午後寝 遊び 夕食 入浴 遊び 就寝

児童 起床 朝食 登校準備 勉強 昼食 勉強 遊び 夕食 入浴 勉強 就寝

生徒 起床 朝食 登校準備 勉強 昼食 勉強 部活 夕食 入浴 勉強 就寝

社会人 起床 朝食 出勤準備 仕事 昼食 仕事 夕食 入浴 趣味 就寝

5歳児健診—東京方式—

<目的>

3歳児健診と就学時健診の間に、5歳児の乳幼児健診を行い、健やかな**身体発育の確認**と現行の健診では限界があるとされる**発達障害の発見**の機会とする。また、保護者や関係者に**生活習慣**を含む5歳児の姿を認識してもらい、就学を迎えるための準備を始める契機とする。

5歳児健診—東京方式—の作成

健診内容

- 1、身体測定
- 2、眼の異常
- 3、歯の異常
- 4、問診票のチェック
(生活習慣チェック、行動評価SDQ)
- 5、一般診察
- 6、5歳児診察

ASD傾向の場合

- 余計なおしゃべりをする
- 理屈っぽい
- 指示に従わない
- 下肢の使い方が下手
- 姿勢が保てない
- 話さない

<質問>

勝手にいろいろ話してくれましたが、
マイペースですか？
ケンケンが上手ではなかったけど、
運動が苦手ではないですか？

ASD傾向の子どもへの対応

- 事前に予告をする
- 間違いをその場で修正してあげる
- 主導権を子どもに渡さない
- 生活の流れを一定にする

AD/HDが疑われる子どもの対応

- 上肢の使い方が下手
- 自分勝手に動かす
- 20秒の閉眼できない
- じっとしてられない

<質問>

手の動きが上手ではなかったけど、不器用？
勝手に動かしてしまったけど、先生の話は最後まで聞いてますか？
20秒閉眼できなかったけど、落ち着きは？

AD/HDが疑われる子どもへの対応

- ほめる

(できたことだけでなく、やったこともほめる)

- 怒られないように工夫する

(片づけやすいように工夫する)

ほめ方

頭をなでたり、肩に触ったり、うまくいったときにハイタッチをするなどのスキンシップが効果があるときもあります。

ほめ方

言葉では、

- ①「さすが」「すばらしい」「すごいね」を独り言のようにつぶやく
- ②さりげなく「役に立った」「助かった」「ありがとう」という。
- ③「ちょっと〇〇はおしかったかな」と最後に付け加える。

叱り方

①子どもの命に危険があるとき

「こら！」「だめ！」「めっ！」と大きな声で言います。この方法は1度だけ使用することで効果があります。毎回使用すれば慣れてしまうため、継続して使用してはいけません。このときも叩く必要はありません。もし、この方法を継続してしまうと、だんだんと声も大きくなり親御さんも感情的になっていく危険性があります。

叱り方

② 子どもに責任をとらせる叱り方

お子さんが散らかして遊んでいるとき、
「そんなに散らかして！お片付けしなさい。」

(ママと一緒に片付けしましょう)

(ママがお片付けするまでそこに立ってみて
いなさい)」と言う。

叱り方

③ 継続的に使う叱り方

1回目「やめなさい」

2回目「さっきもやめなさいって言ったでしょ」

3回目「ちょっとおいで。」あるいは、ママがお子さんのそばに行き、両手をお子さんの腕におき、静かに「ママはやめなさいって言いました」とお子さんの目を見て言い、その場を去ります。それだけで効果があり、この方法は何度も使用できます。

MR

- 質問に答えられない
- 上下肢の使い方が下手
- 黙ってニコニコ笑っている

<質問>

園で先生のお話はちゃんと聞いていますか？

園でみんなと一緒に動いていますか？

園のことをお家で話しますか？

運動は好きそうですか？

MRが疑われる子どもへの対応

- 絵本読み
- 身辺自立を確実に

子どもの健やかな成長って何？

- 命が守られること
- 生理的要求が満たされること(快食・快便・快眠)
- 規則正しい生活ができること
- 生活の変化に適応できること
- 自己肯定感が育つこと
- 興味・関心・意欲

育てたいカー自己肯定感

生活リズム

身辺自立

言語化

信頼関係の構築(期待に答える)

子育ての基本的な観察点

子どもの成長発達を促すために必要な関わり
ができない

- ・授乳や食事
- ・保清
- ・情緒的な要求への応答
- ・子どもの体調変化への把握
- ・安全面への配慮

乳児期の「育てにくさ」

- 1ヶ月—突っ張って抱きづらい、泣きやまない、寝ない
- 3ヶ月—あまり泣かない、あまり笑わない、首が坐らない、
体が柔らかすぎる、寝返りしない、寝ない
- 6ヶ月—お座りができない、離乳食を食べてくれない、
はいはいしない、夜泣き
- 9ヶ月—後追いをしない、人を避ける、
はいはいやつかまり立ちをしない、
手がかからず育てやすい子
- 18ヶ月—かんしゃくがひどい、手をつないで歩けない、
母親から離れない

養育困難感を助長するもの

- ・ 激しい泣き
- ・ 夜泣き
- ・ かんしゃく
- ・ 指示に従わない
- ・ ミルクの飲みムラ
- ・ 食事を食べない

相談が繰り返された時は注意

家庭で子どもの様子に気づくために

○会話

○生活リズムの変化

- ・ 食事 (量 時間)
- ・ 睡眠時間(入眠時間 睡眠時間 覚醒の様子)
- ・ 帰宅時間
- ・ 余暇の使い方

気づくために規則正しい生活を

育てにくさへの対応

| ・親である自分 | ・周囲(配偶者、友人、機関) | ・解決方法は？ |
|---------|----------------|----------------|
| ・ない | ・ない | ・大丈夫 |
| ・ある | ・ある | ・相談しながら |
| ・ある | ・ない | ・心配が続く時は相談も続ける |
| ・ない | ・ある | ・お子さんを見つめて |

アドバイスする際のポイント

質問に対して

- ・お母さんの言葉を繰り返してあげる
「…なんですね」
- ・質問をしてあげる
「…どうですか」「他に何かありますか」
- ・心配なこと、わからないことは受診を勧める

アドバイスの伝え方

- ・普通の子育てを求めるのではなく、今困っていることを少なくする方法をアドバイスする
- ・保護者が内容を十分理解できているか
- ・アドバイスの内容をより具体的な生活場面を設定して説明する
- ・うまくいっていることは続けてもらう

相談を継続してもらうために

- ・「いつまで」「こうなったら」と具体的な目標を定める
- ・「何かあったら」は難しい
- ・「こうなったら・・・する」「こうならなかったら・・・する」と今後の方針を前もって伝えておく

保護者の声に耳を傾けて

- よくやっている、ちゃんと育てていると認める
- わからなくてあたりまえ。わからないことをせめない。

アドバイスの最後に

- 保護者に子育ては一人ではないと感じてもらえたか
- 保護者がアドバイスされたことを理解してくれたか
- アドバイスの内容は、その保護者にとって実施可能なものであったか
- 保護者がアドバイス通りにできなくても再挑戦の機会を設けているか
- 保護者に相談を続けてもらう関係を築けているか

求められるもの

- お母さんの気持ちに寄り添うこと
- 答えようとあせらない
- わからなくても大丈夫
- 一緒に考える

アドバイザーのために

- アドバイザー自身が相談できる人はいますか？
- アドバイザーを一人にいませんか？

支援レベル1

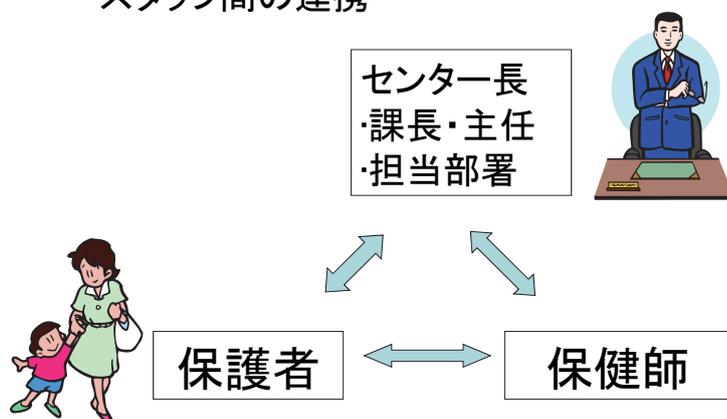
保護者との連携



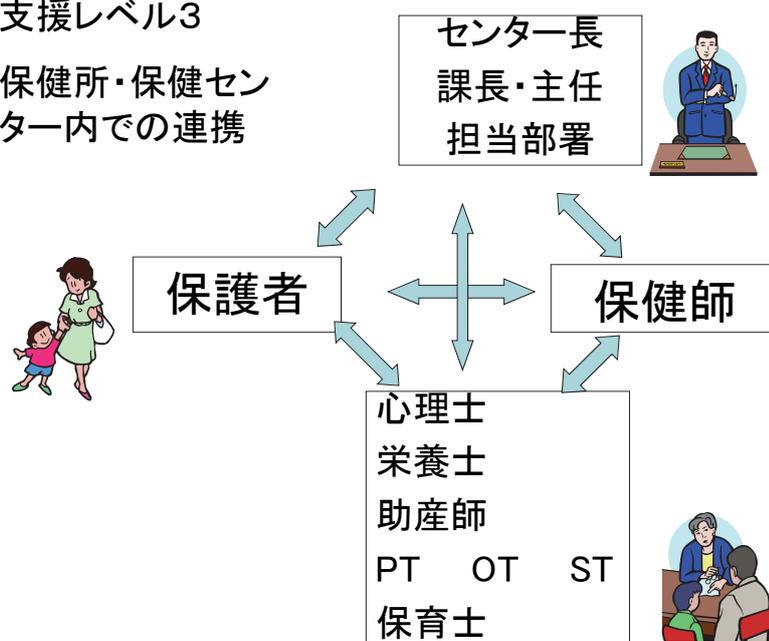
保護者

保健師

支援レベル2
スタッフ間の連携

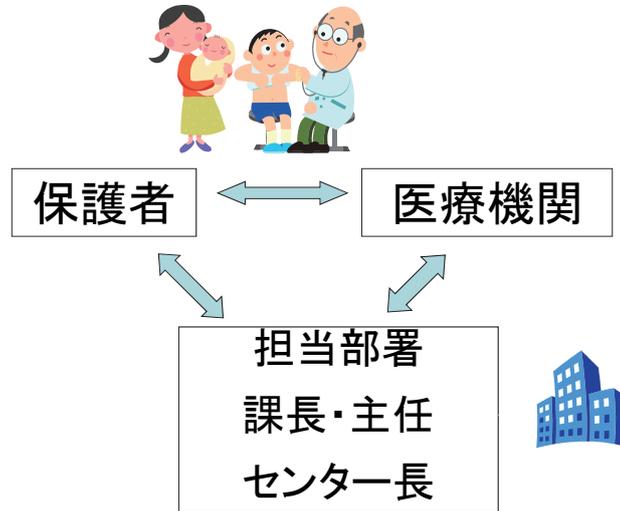


支援レベル3
保健所・保健セン
ター内での連携



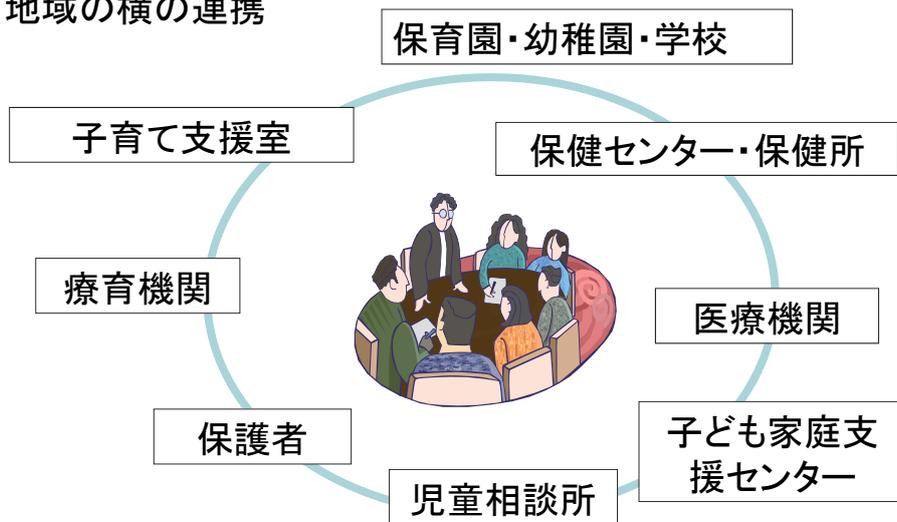
支援レベル4

地域の医療機関との連携



支援レベル5

地域の横の連携



最後に

- ・「育てにくさ」の心配に耳を傾ける
- ・自分が感じた疑問を放置しない
- ・保護者を置き去りにしない、保護者と共に
- ・問題を先送りしない工夫
- ・一人で、一機関で抱え込まない
- ・家庭・医療・保健・福祉・教育が連携し、連続した子育て環境を形成する